

4題の発表と初の実技講習

第53回愛知県柔道整復学会
第90回会員研修会

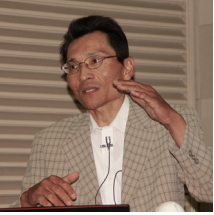
7月1日(日)午前10時から午後0時20分まで、愛整会館3階にて第53回愛知県柔道整復学会・第90回会員研修会が開催され、180名の会員と勤務柔整師6名が参加した。

冒頭の挨拶で森川会長は、早朝からの多くの会員の参集に謝意を表し、制度改革の進捗状況等を紹介したのち、「柔整業界が刻々と大きく変化するなか、研修会を通して、地域住民の皆様に新しい知見を伝え信頼を得て活躍することが、柔道整復師の使命である」と述べた。

その後まず柔道整復学会として、以下4会員の発表が行われた。

1. 軟式テニス選手に発生した鼠径周辺部痛についての一症例

岡田一夫会員 (豊橋)



鼠径部痛症候群が疑われた中学校男子軟式テニス部選手に対して、筋力強化、協調運動、ストレッチなどの保存療法を行ったところ、8週間で治癒に至り良好な結果が得られたと、私見を加え報告した。

2. 長期化した足底腱膜損傷に対する足底板装具療法の有効性について

和家博明会員 (笠寺)



足底腱膜損傷が長期化した患者などに硬性素材の足底板装具を工夫し自作。骨棘を伴う長期化した損傷に対しても、簡易足底板や踵保護パッド付サポーターに比べ、VAS評価により歩行時痛軽減の有効性が実証できたと発表した。

3. 江南健康フェスティバルでの市民アンケート調査報告

服部洋平会員 (一宮)



江南市の健康フェスティバルで、肩、腰、膝の疼痛予防体操教室を実施し149名に対してアンケート調査を行った。その結果から最多疼痛部位は同率で腰、膝、次いで肩、首、足の順番であった。体操教室に対する参加者の満足度は高かったと報告した。

4. 肩関節脱臼既往症例の残存症状と後療法 館 利幸会員 (大曽根)



肩関節脱臼既往症例に対し、残存症状の評価とエコー観察を行った。その結果、徒手検査およびエコー観察で肩関節内旋筋力の低下を認め、運動療法実施で症状の改善が認められた。脱臼患者の不安定の原因は、Bankart 損傷や Hill-Sachs 損傷などの関節構造の破綻だけでなく、筋力等の肩の機能低下も関与し、その機能低下は自然に改善されるものではないため、症状を詳細に評価し適切に後療法を行うことが重要であると述べた。

午前11時25分からは、「上肢・下肢軟部損傷に対する固定～固定法・固定具の紹介～」と題して、第90回会員研修会が行われた。

今回は外部講師による講演を変更し、より実践的な情報を発信する目的で、日頃から各々の施術所で行われている足関節捻挫に対する固定法と固定材料の紹介が、3支部の会員により実技講習として初めて実施された。



吉田会員

1. 足関節の歩行ギプスシーネ 吉田実機会員 (刈谷)

2. 厚紙副子を用いた足関節固定 対象 (荷重可能内反足関節捻挫) 山田 茂会員 (一宮)

3. 腫脹軽減を目的としたU字パッドを使用した足関節固定法 近藤和義会員 (鶴舞)

近藤和義会員 (鶴舞)



山田会員



近藤会員

Welcome!! 新入会員

氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
永田和平	S62.4.9	岡崎	米田柔整	—	ゴルフ
小出貴彦	S63.5.12	大曽根	東海医療	—	カフェ巡り
米女博司	S34.4.22	鶴舞	日本柔整	六段	旅行・映画鑑賞



永田和平会員



小出貴彦会員
新婚旅行 (北海道) にて



米女博司会員

H28、フロリダ (米) の世界ベテラン柔道マッチを観戦 (懐かしい再会を果たした学生時代の柔道留学生家族やその仲間とともに)。

日整通常総会開催



6月24日(日)午後1時より、日本柔道整復師会館において代議員104名中103名が出席して通常総会が開催された。本会からは森川会長 (理事) と、藤川副会長・長谷川副会長・早川総務部長・筧学術部長・小林事業部長 (いずれも代議員) の、計6名が出席した。

総会は三橋裕之総務部長の司会進行により始まり、まず物故者に対する黙祷と、帰一賞の授与式 (功労賞3名、学術賞2名、精錬賞13名の計18名) が行われた。その後、正副議長に及川 磨 (岩手)・平良光政 (沖縄) 両代議員が選出され、三橋裕之総務部長による平成29年度事業報告のあと、以下の議題について審議された。

- (1) 平成29年度決算案の承認について (石原 誠財務部長) 監査報告 (寺本欽弥監事)
- (2) 平成30年度会費免除者案の承認について (三橋総務部長) 2議案はともに挙手多数で決裁承認され、午後2時50分終了した。(代議員 長谷川貴一)

第24回東海4県役員合同協議会開催

7月1日(日)、愛整学会開催日の午後2時より、第24回東海4県役員合同協議会が開催され、4県の理事・監事総勢45名が出席した。



今年は愛知が担当県となり、本会長谷川副会長の司会進行のもと、以下の事項について話し合われた。

- (1) 柔道整復師制度及び教育制度の改革について (森川会長)
- (2) 柔道整復療養費の推移について (伊藤宣人・三重県会長)

森川会長は今回の制度改正や、料金改定の注意点を最新の情報をもとに説明。また東海ブロック会副会長・伊藤三重県会長が、詳細なデータを提示し、学校数や有資格者数の推移や、会員と会員外、柔整と「あはき」の比較などをしながら療養費の推移を詳述した。

人体解剖研修会



6月28日(木)、浜松医科大学解剖学教室・佐藤康二教授のご指導のもと静岡県柔道整復師会が実施している人体解剖研修会に、公益社団法人柔道整復師会会員ということで、参加させていただくことができた (総参加人数75名・うち愛知県会員25名)。

佐藤教授の詳しい解説を聞きながら、ご遺体の一部を実際に手で持ち、人体の構造や仕組みを観察した。(半田支部 田之上哲人)